

新制作

会報 No.58

発行
2009年12月15日
編集・発行人
岡崎 紀

発行 新制作協会 〒110-0013 東京都台東区入谷2-4-2 増田ビル202 Tel.03-5603-8350 Fax.03-5603-8360
<http://www.shinseisaku.jp/>



2009年・第73回新制作展

第73回 新制作展

新会員・受賞者紹介

新会員

絵画部



曾根三千代
そねみちよ

◆この度は新制作協会会員に推挙いただきまして本当にありがとうございます。大学時代、先生の勧めで出品して、その時より諸先生方の励ましと指導のもと、作品と向き合い制作を続けることができました。感謝申し上げます。

これからも自身の絵を追求していけるよう努力していこうと思います。今後ともよろしく願い申し上げます。

◆一九七四年香川県生まれ。多摩美術大学大学院美術研究科修了。一九九七年第61回新制作展初入選。第69回、71回、72回新制作展新作家賞受賞。



高堀正俊
たかほりまさとし

◆この度は会員に推挙して頂きありがとうございます。私が新制作に出品しはじめたのは、学

生生活も残り一年少々となり、今後制作を続けていくためのペースメイクにならばと思います、出し始めました。しかしながら、実際に学生生活を終え大作を制作し続けることの難しさを、身をもって知ることになりました。

今後とも新制作を制作の柱として発表していきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

◆一九六五年神奈川県生まれ。一九九〇年第54回新制作展初出品。一九九一年武蔵野美術大学大学院修了。第71回、72回新制作展新作家賞受賞。



手嶋醇子
てしまじゅんこ

◆この度は、会員に推挙いただきまして、本当にありがとうございます。今、その重みと責任を実感していますが、これからも日々の暮らしを大切に、心の中の色々な想いを絵の中で語っていくことが出来たらと思います。そして、ずっと後になって、絵を描くことが私の人生を豊にしてくれていたと感じることが出来たらいいなあとと思います。

◆一九四七年愛知県生まれ。一九七九年第43回新制作展初入選。第70回、71回、

72回新制作展新作家賞受賞。



成尾勝己
なるおかつみ

◆学生時代の私は、ただ何となく自分の好き勝手に描いていただけでしたが、新制作展に出品するようになってからは、自分の絵が他人にどう見えているのか、気になるようになりました。そして、そのことは今もとても良い勉強になっています。私は、見る人が楽しい気分になるような絵が描けるように頑張っていきたいと思っています。

今後ともご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

◆一九七〇年広島県生まれ。一九九六年愛知県立芸術大学美術学部油画専攻卒業。一九九七年第61回新制作展初入選。第67回、70回新制作展新作家賞受賞。

彫刻部



池田吏志
いけださとし

◆信頼される作家になりたいです。そしてその前によい人間でありたいと思っています。

このたびは会員にご推挙いただきありがとうございます。いろいろな出会いがここに導いてく

れたのだと感謝しています。

◆一九七四年兵庫県生まれ。一九九九年筑波大学大学院芸術研究科修了。一九九九年第63回新制作展初入選。第71回、72回新制作展新作家賞受賞。



細田修己
ほそだおさみ

◆初めての受賞から二年、二回の本展と二回の受賞作家展、その間に多くの方々との出会いがありました。また、残念な別れもありました。

この大切な二年間を、そして、今また新たな機会を頂いたことに心よりのお礼を申し上げます。

ありがとうございます。

◆一九五〇年大阪府生まれ。一九八一年小島工房四年修了。一九八四年第48回新制作展初入選。第71回、72回新制作展新作家賞受賞。



本田悦久
ほんだよしひさ

◆会員に推挙して頂き、有難うございました。万感の思いです。私に彫刻の魅力を教えてくれたのは、新制作の二人の先生でした。爾来、具象彫刻を追い続け、難しさを知り挫折を繰り返し、自分の中に残っているものが澱まの蓄積なのか分からないまま、ようやくここまで到達

しました。ワインのごとき熟成がこの先にあると信じ、更なる変容を遂げたいと願っています。新制作で何をしたいのか熟考しつつ。

◆一九四八年東京都生まれ。一九七四年東京芸術大学大学院美術研究科修了。一九七三年第37回新制作展初入選。第68回、72回新制作展新作家賞受賞。



わたなべ ひろのぶ
渡辺 尋志

◆会員推挙をいただき、有難うございました。ようやく辿り着きました。ここから新たな作家としての始まりだと思っています。今後も型に囚われない、自由な作品造りを目指していきたいと思っています。初出品から二十八年、様々な作品を造ってきた経験に甘んずることのないよう、新しいことに興味を示し、未経験に挑戦していきたいと思っています。今後よろしく願っています。

◆一九五九年福島県生まれ。一九八三年東京造形大学彫刻科卒業。一九八三年第47回新制作展初出品初入選。第51回、73回新制作展新作家賞受賞。



まえ だりょうじ
前田 亮二

スペースデザイン部

◆この度は会員に推挙していただき、ありがとうございます。最初は「スペースデザインってなんだろう」と、たいして何も考えずに応募しました。そして落とされました。その後、たくさんの先生方のご指導のもと、空間に対する意識が強まり、楽しくなり、ここまでやってまいりました。

これからも試行錯誤を繰り返しながら、何より楽しく制作を続けてまいります。

◆一九七四年愛媛県生まれ。二〇〇一年大分県立芸術文化短期大学美術専攻科(染色)修了。二〇〇二年第66回新制作展初入選。第68回、70回新制作展新作家賞受賞。

新作家賞

絵画部

甲斐美奈子(大分) 高橋正樹(愛知)
田村研一(京都) 松木義三(北海道)
松田奈那子(北海道)

彫刻部

上松和夫(静岡) 加藤裕之(岩手)
木方立樹(愛知) 中谷 聡(長野)
増井岳人(神奈川) 吉村維元(千葉)
スペースデザイン部
伊藤 順(山形) 大石 文(神奈川)
高松恵子(茨城) 立花克樹(宮崎)
若松美佐子(東京)

73回展 点 描



審査・陳列

●絵画部審査報告

絵画部 松浦安弘

第73回新制作展絵画部の審査報告をいたします。

まず、本年度より絵画部では小品部門が新設されましたので、審査2日間をフルに使っての審査となりました。審査については、一般部門と小品部門は同じ基準で分けて行いましたので、その結果や厳選となりました。しかし、小品部門には思いのほか若い世代の人達が多く関心を寄せて下さったことなど、これから



の新制作に希望と期待を感じました。

また、昨年より始まったデータ部門でも、昨年より搬入点数も増えて、中には18才という若い人の参加があり、データ部門にもこれから期待できそうです。ただし、中にはデータその物の不完全さがあつたりして、より良い状態のデータを送ってほしいと思いました。

今年の入選者は271名で、そのうち小品部門は34名、データ審査で14名でした。応募点数は1096点、応募者は444名。昨年より64名増えて点数も157点増加となりました。これは、昨年の審査が好意的であつたことが出品者の枠を広げているのだと思います。新制作展では、他に比べて少し厳選であつても、



会場展示では2点入選以外はすべて一段掛けを守っていることも大きな特色です。皆さんに一人でも多く応募して頂くため、会員の皆さんがいろんなことを検討していますので、応募者の方々も自由にのびのびといろんな試みをもって対応して下さいることをお願いいたします。

●彫刻部審査と展示

彫刻部 鈴木武右衛門

審査進行係を1〜2回拝命いたしました。突然委員長とは驚きでした。また、会報の文章も書くとのこと、また驚きました。私のような若輩者はまだまだと思つていましたし、もっと優秀な方々が大勢いらつしやるからです。憎越ですが、今回、筆をとらせていただきますことをご容赦いだだきたいと思ひます。

さて、彫刻部は今回から、従来の審査に加えてデータ審査が新しく導入され、3点の応募がありました。そして、従来の審査と併せて140点、93名の応募数となりました。初入選12名、再入選72名で、93点の入選を決めました。一方で、選外は47点、1点も入選しなかった方が9名でした。その多くは高齢者です。この数が多いか少ないかの議論は置いておくとしても、私が会員になって早30年。万感の思いであります。ゆるやかながらも長期減少の一途をたどる中、「どうすれば応募者が増えるのか」、それは会員全員の危惧であり、課題であると考えてい



ます。座して待つよりは、いろいろ実験的なものでも検討すべきではないでしょうか。それには、会全体の魅力や活力、刺激と興奮が必要不可欠ではないかと思うのです。

展示については、本来ならば展示委員長の瀧さんに書いていただくのが筋かと思いますが、展示についても併せてのことでしたので、書かせていただきます。瀧さんの展示構想は、人の鑑賞の流れを意識したものでした。パーティションで空間を区切らずに、作品を素材別に集めて半楕円形の作品群をいくつか作り、その間を縫うように川の流れのような順路を作る方法です。鑑賞する人は、もちろん、島のように形成された作品群の中



端に面積をとる作品も少なくなり、落ち着いて見て回れる空間だったと思います。展示方法はまだまだ可能性があり、新しい方法を模索していくことで、さらに実験的な作品が期待できることでしょう。そのためには、独自性を発揮して下さる方を委員長にお迎えできれば、と思っています。次の次第です。

●審査陳列報告

スペースデザイン部 谷 浩二

今年のスペースデザインはミニアチュール作品審査が新たに加わり、一段と多様性に富んだ作品が搬入された。また、応募料の規定変更を受けて複雑になった計算にも、受付係や会計が冷静に対処したことに敬意を表さねばならない。

応募点数79点の内、一般作品が57点、ミニアチュールが22点で、総数は昨年同様だが、一般作品からミニアチュールに移行した応募者もあり、一般作品部門の応募点数が減少する結果となった。時勢を反映していることも否めないだろう。しかし、両部門への応募者も複数あり、意気込みの高さを感じさせてくれた。

入選点数は、一般作品部門が39点、ミニアチュール部門が9点。ミニアチュール部門の入選率は約41%とやや狭き門だった。入選点数が増えれば当然陳列範囲の再考もあったのだが、結果的には予定通りの陳列位置に収まる数字となった。来年もミニアチュールならではの表現手

段や、独自性の高い作品を期待したい。

3度目となる国立新美術館での陳列作業も順調だった。昨年の経験が生きていることもあるが、多数の入選者が作業に参加してくれたことが大きな要因として挙げられる。経費節減の折から殆どの作業を自分たちで行った。会員と入選者が一丸となって働く姿は頼もしく、連帯感を垣間見た。会員作品34点、入選作品48点の合計82点が今年の陳列数である。内、会員2作品は休憩室壁面に、また会員2作品と入選1作品は野外展示場に陳列された。休憩室壁面展示は予め会員から希望者を募り、2名を指名して空間に合わせた作品制作を依頼する方式である。野外展示は彫刻部の配慮により効果的な陳列が実現できた。感謝したい。なお、展示室可動壁の設定は作品内容が昨年に近いため敢えて変えなかったが、来年はミニアチュールの暗室展示も含め、より効果的な陳列になるよう流動的な精査が必要であると感じた。

陳列後の授賞会議では、議論白熱の末、新会員1名と新作家賞5点が決定した。今後の活躍を期待できる作家たちだ。

最後に余談だが、今年からSD部も会場での作品写真販売を始めた。担当者の負担はとも大きいが観覧者には好評で、予測以上の結果に力を得た。ささやかでも、すべて部の潤いとする意義は大きい。



新制作 生みの親 育ての親 〈3〉

絵画部会員 荒井 茂雄

皆さん、こんにちは。今回も前回の創立会員の想いの続きで、内田巖先生から入ります。

* * *

◇日本アカデミズムの特殊性

内田 巖

「(前略)アカデミズムに於てはその傳統技術の洗練は第一義的な藝術的條件であるから、そのテーマ、モチーフに到る迄、その無意識的な技術踏襲の限界の中に必然の規定せらるゝものである。勿論その傳統技術は技術教養の過程に於ける多くの教示を含むものであるが、アカデミズムの性格は修身の教科書が道德でない如く藝術ではない。(新制作派協會の精神はアカデミズムの性格の否定であつて、傳統技術を輕視するの意ではない)」

古くから傳統を持つ國、英國やフランスのアカデミズムは長い間の技術的修練によつて、その前時代の印象主義を反映した一つの畫風を完成し、その洗練された技術的誇りを持つものではあるが我國の如き傳統のない國では、未だその技術的權威さへも持たないのである。

(中略)自分達が今迄官展に居つた癖に官展を非難する事は甚だ矛盾に見えるかも知れないが、官展にゐたればこそ自分

達の體驗が官展を否定する判然したポイントを得たので堂々と自説を述べ得るのだ。新制作派協會は以上の認識の上に立脚して、日本アカデミズムを否定するのである」と、まとめています。

前回申しましたように、創立会員の中心で内田先生とは会っていないのですが、先生が書かれたものをいくつか読んでみて、理論的な文体から先生の律義な性格がうかがわれます。この「日本アカデミズムの特殊性」でも、新制作結成の理念を論理的に捉えて、当時の古い殻から脱皮して純粹な新たな世界を創立することの意義を、熱情をもつて語っています。

* * *

◇水繪について

中西利雄

「水繪を描いて居る人々の側から、畫壇に於ける水繪待遇の聲を屢々きくが、其の事を云ふ前に、まだまだ私は我々自身水繪を描く側に、多くの反省すべきことがあるやうに思ふ者である」と、自己反



省を促し、さらに――

「水繪も繪畫である以上水繪に志す者は先づ繪畫道の楷梯を極めて嚴格に踏まねばならない」と。なおも、

「繪畫としての明確な自覺もなく、只概念的な水繪の特質と稱する貝殻の中に、身をとどめ込めるなら、其處には新しい世界への道は見出し得ないであらう。水繪らしいと云ふ、其のらしいの袋小路へ曲りこむことは、明日への希望を自らの手で断切るものである」と厳しく警めて、最後に、

「終りに、水繪輕視の偏見があるとして、それを我々の力で打破する方法は只一つしかない。眞のよき繪畫の水繪を描くことであらう」と、力強い愛の言葉で勇氣を与えています。こうあるべきである、というマニュアルを、大事に抱える姿に背を向けて、アートの大道を大手を振つて悠々、鮮烈な中西利雄の世界を創つた人です。

* * *

◇對照

脇田 和

「周囲からの刺戟の強い程、自分の知のはたらきは激しくなる。反對に弱ければ鈍くなる。四圍の情態に據て、繪は強くも弱くもなる。その強弱の度合によつて仕事の度も決まる。エカキは環境が大切だ。よい環境に自分をおくことに努めなければいけない。全てのことが繪と對照して考へるときに、よい對照を先づ醸すことが大切だと思ふ(中略)」

日本の油繪が調子が弱く色に乏しいのも、もともとは風土に原因するらしい。ヨーロッパの様に空氣が乾いてゐたら、それだけでも日本の油繪は變つてくるやうな氣がする。何としても、吾々油エカキには、日本の風物が單調で刺戟が弱い。對照となるものが弱い。

これを考へると、せめて油エカキはアトリエの中だけでも美しい對照となる物を置いて繪を豊にすることに努めたい。エカキは繪をコンポーズする前に、先づアトリエをコンポーズす可きだと考へる」と――。

平素からアトリエがアートになつていて、いつでも作品が創られることが大切であることを力説しています。

脇田先生には幾度も会う機会があり、先生の東京・世田谷のアトリエ、輕井沢のアトリエ、ハワイのアトリエ、それぞれのアトリエは、それぞれに美しいシャープなアート空間で、ピンと張つた空氣が記憶に焼き付いています。

* * *

◇サン・ヴィクトアール山 佐藤 敬

「僕の中學時代學校のすぐ裏手から見た風景が複製で見るセザンヌのサン・ヴィクトアールの風景に非常によく似てゐて、すっかり夢中になつて幾度もよく寫生をした。(中略)」

何分田舎の中學だつたので、すっかりセザンヌに感激しきつてゐた。然し今考へて見ると中學時代にセザンヌの造形意

識を教へてもらった事は何より有難かつた。

其後いよいよ仏蘭西へ行く時、エクスでセザンヌのアトリエと其の風景を見る事を一つの大きなプランにして行つた。滞仏中はとうとうその機会がなくなつてに歸る間際になつてその目的を果たすことが出来た。(中略)

巴里のルーブルにあるセザンヌのエスタツクの風景は實際今見るピユスの窓の風景にそっくりではないか！

約一時間も走つた頃右手にはオリープの林が切れたと思つたと同時に例のサン・ヴィクトアール山が、やつぱりコバルトとピンク色のセザンヌそつくりの色で目に入つて來た。

サン・ヴィクトアール山！

これこそ中學時代から夢にも見たセザンヌの山だと思ふと、ピユスから今にも

ひととき

73回展の新作家賞の賞牌は、絵画部の山内秀臣氏に制作を依頼しました。



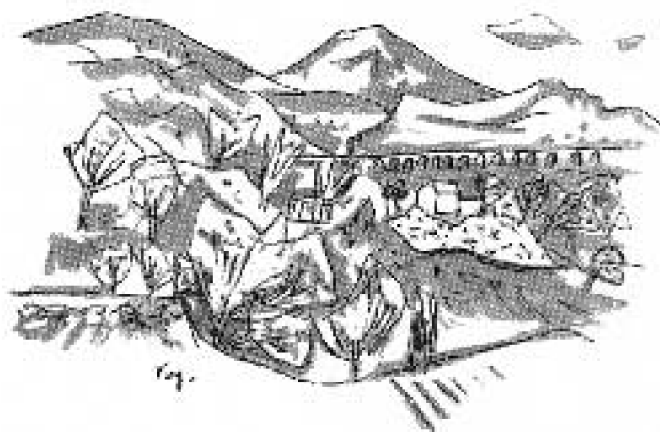
賞牌 (デッサン)

下りたくなつた。(中略)

やつと繪葉書屋のおばあさんに道を教わつて歩き初めたが随分町はづれであつた。アヴウニユ・セザンヌと云ふ立派な通の町ではあるけれど、発見したセザンヌの畫室は、まるで丘の上の一軒家であつた。

『ポール・セザンヌ、一八三九年一月十九日エクス、アン・プロバンスに生れ、一九〇六年十月廿二日此處に死す。家屋は市の記念物とし永久に記念するものである。』

こうした文字がその入口に見られた。僕はこゝで多くのセザンヌの藝術への教示を受けながら、なつかしいバスク風



の彼の愛好したヴェレーや大型の書架や靜物に用ひた石膏像や壺など見てあるいた。いつのまにかくれやすい冬の日が畫室の窓にしのびやうとしてゐるのも忘れて——と、学生時代に夢にまで見たセザンヌを、現実のその風景の中に入り、セザンヌを実感して感激した様が見えてきます。

◇ちから 鈴木 誠

一(前略) 外界から迫る他の一切の要求——義理、道徳とか法則とか因襲とか云ふ外的要求を超脱して、眞に純然たる自己表現を行ひ度い。それは死身になつて行る最も嚴肅なる可き人間の行為である。(中略)

子供の生活は實に澆漓たる生氣と、その生命力の旺盛さには到底大人の比ではない。従つてこの力の餘裕も多い、その餘裕を以て彼等は更に現在よりも、もつと自由な、そして未知の世界を求めようと欲して居る。それは吾々がより優れた藝術を創造しようとする慾望と相似たものである。(中略)

周圍を超越するか又は逃避して超然たる高踏的生活に入るか、然らずんば周圍



に向つて激烈なる挑戰的態度に出づるかこの二途を選ぶに他はない」

——と、さとしています。純粹で自由な子供心を持つことの大切さを説き、その生命力は無限の可能性を秘めていることを力強く話し、問うています。

さて、今回はこれにてお別れです。次回でまたお会いいたします。

(諸先生方の文章・挿し絵は図録1号より、脇田先生の文章のみ図録3号より掲載しました)

* 受賞作家展 *

73回展新作家賞受賞者による受賞作家展を左記のとおり開催いたします。開催初日にはオープニングパーティーも行います。皆さまのお出でをお待ちします。

絵画部

■会期 10年2月15日(月)〜20日(土)
■会場 銀座井上画廊

☎03-3562-1911

彫刻部

■会期 10年2月15日(月)〜27日(土)
■会場 ギャラリーせいほう

☎03-3573-2468

スペースデザイン部

■会期 10年1月8日(金)〜13日(水)
■会場 建築会館ギャラリー

☎03-3456-2051

Gallery Talk

●絵画部 ①9月19日(土)、②20日(日)、③22日(火)の3回に分けて開催。①は荻太郎氏の特別展示に伴う、菲崎大村美術館館長・大村智氏による荻氏の急逝をうけての講演で、故人をしのび150名以上の来場者が熱心に耳を傾けました。その後は従来通り出品者の講評を行いました。②は絵画技法を中心にしたもので、会員が各自の技法を説明する新しい試みとなりました。③は19日に引き続き出品者の講評の2回目でした。



●彫刻部 9月20日午後1時〜3時、美術館3階講堂に於てパネルディスカッションを行いました。『彫刻の現場・発表の現場』をテーマに、田中三蔵(朝日新聞専門シニアスタッフ)、ワシオトシヒコ(美術評論家)両氏をパネリストとしてお迎えし、彫刻部から橋本、北郷、上

野の各氏を交えディスカッションを行い、多数の来場者が熱心に耳を傾けました。



●スペースデザイン部 9月19日、内外のミニアチュール作品を紹介した片岡葉子氏の「ミニアチュールの世界」、及び「極めて私的なWhat is space design?」と題した降旗英史氏のトークが、暗室会場で映像を交えながら行われました。



《お知らせ》

◇巡回展開催

*2009新制作京都展

会期 09年10月20日(火)〜11月1日(日)

会場 京都市美術館

*第73回新制作絵画展(名古屋)

会期 09年11月10日(火)〜11月15日(日)

会場 愛知県芸術文化センター

8階ギャラリー

*第73回新制作絵画展(広島)

会期 09年12月1日(火)〜12月6日(日)

会場 広島県立美術館・県民ギャラリー

◇73回展開催中の入選取り消しと会場からの作品撤去についての説明

会期中、入選作品が盗作ではないかとの通報がありました。絵画部運営委員は、それが他会派物故作家の作品の全くの引き写しであると判断し、陳列撤去と入選取り消しの処置に至りました。審査の厳正さを踏みにじる行為には厳しく対処して参ります。

絵画部運営委員会

《伝言板》

◇絵画部協友推挙

(内、入選15回以上10名を含む)

越智悦子 甲斐美奈子 松田奈那子

藤村弘子 大森美和子 小山 恵

越野あき子 椎名みどり 丹羽風子

野田龍二 畑田夕加子 森 晴秀

訃報

▼児嶋義一氏(絵画部会員)

二〇〇九年一月十四日、逝去されました。享年八十歳。

▼古川通泰氏(絵画部会員)

二〇〇九年三月六日、逝去されました。享年六十八歳。

▼赤穴 宏氏(絵画部会員)

二〇〇九年六月三日、逝去されました。享年八十七歳。

▼神谷幸子氏(絵画部会員)

二〇〇九年六月九日、逝去されました。享年七十九歳。

▼荻 太郎氏(絵画部会員)

二〇〇九年九月二日、逝去されました。享年九十四歳。

▼加藤 聡氏(絵画部会員)

二〇〇九年九月九日、逝去されました。享年五十八歳。

心よりご冥福をお祈りいたします。

◇新制作協会eメールアドレス

新制作協会事務所のeメールアドレスは以下のとおりです。ご利用下さい。

webmaster@shinseisaku.jp

会報編集委員 絵画部・山口 都

彫刻部・藤森民雄 SD部・中野 威

(吉國写真室)